

# 高尾の森から

## 森林環境教育のねらい

森林環境教育は、森に関する知識や体験を通して、「森の仕組みや働き」「人と森のつながり」「生態系の大切さ」を学び、特に、子供たちの「生きる力」の育成に役立つことを目標としています。

「生きる力」とは、「変化する文明社会で、問題に対して、自ら学び、自ら考え、自ら判断し、自ら行動し、問題をよりよく解決する力」です。また、「自分を律する心や仲間と協調する心、他者を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性や社会性を育て、たくましい健全な心と体を作ることである。」と言われていま

す。プログラム内容は、文明社会では磨きにくい五つの感覚（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）を揺さぶり、森や自然の巧妙な仕組みを体感し、目を見張る体験を通じて、豊かな感受性を育むように仕組まれています。

では、これらの森林環境教育の目標や仕組について、小学生向けの間伐体験プログラムでみてみましょう。

## 間伐体験プログラムの効果

子ども達は、まず間伐の意味、木の倒し方を知識として学びます。

森に入ると、ヒノキやスギの芳しい匂いに気づきます。35度を超す急斜面に怖じけます。日常にはない傾斜地の登り降りや横断に怖々です。中には四つん這いになる子もいます。



こわごわと林内の急斜面を登る

スギの切り倒し体験では、ノコギリの挽き方や安全に木を伐る手順を緊張の中で体感します。作業の間には森の土の柔らかさ、棲んでいるミミズやサワガニ、ザトウムシ等の



スギの切り倒し体験

小動物やキノコに気づきます。皆で力を合わせてようやく木が倒れると、必ず大歓声が山にこだまします。倒した木は、さらに枝を切り、持ち運べる長さの丸太に切ります。この頃にはノコ使いや傾斜地の移動にも慣れてきます。次に、汗だくで切った丸太を数人で持ち上げ、急斜面を泥まみれで林外へ運び出します。転落の恐怖に打ち勝ち、互いに助け合い、手や腰の苦痛を我慢して、目的地まで頑張って運びます。



力を合わせて丸太の運搬

運んだ丸太の輪切り体験では、額に汗をかきかき、思い思いの厚さで切ったり、皮を剥いだり、湿り気を手で触ったり、匂いを嗅いだり、陽射しにかざしたり、年輪を数えたり、探求心一杯です。以上のような一連のプログラムを

習い修めるうちには、森や林業の知識を得て実際に体験すること、五つの感覚を働かせて、傾斜地や凸凹地を歩く恐怖心の克服、不慣れな作業での手足の使い方、痛みや限界をこらえる力が養われます。

また、初めて木を切り倒す緊張や感動、力や技の違う仲間をかばい、助け合い、みんなで目的を成し遂げる達成感が得られます。森づくりへの貢献、森林・自然の美しさや巧妙さへの関心と感動が生まれます。

このようにプログラムには、森林環境教育のねらいである豊かな人間性や社会性を身につけ、「生きる力」の形成に役立つ様々な仕組みが、随所に盛り込まれています。今後とも体系的効果的なプログラム作りに取り組んでいきます。



楽しい丸太の輪切り